

令和7年第1回町政報告会 質疑応答集

開催日：令和7年8月17日・18日

Q	A
多世代交流型子育て拠点施設を利用したい場合、交通アクセスや、駐車場のスペースなどの、計画はどのようになっていますか？	多世代交流型子育て拠点施設における交通アクセスについては、徒歩や自転車、自家用車、さらには巡回バスなど、複数の手段で来訪できるよう配慮されています。駐車場に関しては、施設の付属設備として約19台分のスペースを確保する予定です。これは、従来の児童館や子育て支援センターを利用していた保護者の方々のニーズに対応できる規模とされています。 しかしながら、今後の利用状況によっては駐車スペースが不足する可能性もあるため、現在、周辺地域における追加の駐車場確保に向けて交渉が進められています。
学校再編について検討中とのことですが、費用などの概要について、いつごろをめどに、どういう形で発表しますか。	今回委託している業務は年内(12月)までに完了する予定であり、10月頃には皆様に報告できるよう準備を進めております。説明の方法としては、説明会や意見交換の場を設けるほか、保護者の方々には学校や保育所を通して直接ご説明する方針です。
杉本美術館については現在も検討中であり、まだ確定した方針は示されていませんが、建物の修繕費用などについては概算が出ているものと考えられます。町としては費用対効果を踏まえた上で負担の在り方を検討しているようですが、名鉄が手放した施設であることや、これまでの経緯を踏まえると、修繕費用を含めた費用対効果が十分に検証されているのかが懸念されます。営利を目的としない運営形態になる可能性もある中で、どの程度の費用対効果を見込まれているのかを説明ください。	杉本美術館について、現在修繕が必要な箇所を業者と確認しており、その費用は名鉄が負担する前提で検討しています。町としては修繕費を負担する考えはありません。 美術館の運営については、営利目的ではなく、全国的にも赤字経営が一般的です。博物館法では原則として入場料を取らないことになっていますが、維持管理のために最低限の入場料は認められています。そのため、黒字経営は難しいと考えています。 そのため、町が直営で運営する場合は赤字を抱えることになるため、町としては他の団体に運営を委託する方向で検討しています。ただし、町の負担が完全にゼロになるのは難しく、一定の費用は必要になる見込みです。 町として美術館を維持するのに幾らぐらいなら価値のバランスがとれるのかということも判断材料とし、基本的には町の負担を極力少なくということを目標に今後検討を進めてまいります。
学校再編の議論は、過去2年間で振り出しに戻ってしまい、進展がないまま時間が過ぎてしまった印象があります。その間に、当初の前提条件が変化している可能性があるため、昨年美浜町で生まれた子どもの人数を学校ごとに教えてほしいです。また、これまでの基本構想や基本計画が、前提条件の変化によって見直しが必要かどうかを確認したいです。さらに、以前実施された保護者アンケートについても、保護者の考え方に変化があるかどうかを知りたいです。	この2年間、学校再編の取り組みは一見進展がないように見えるかもしれませんが、町では、小中一貫校の魅力の一つとして「大学との連携」を掲げ、大学敷地内に新しい学校を建設できないか検討してきました。しかし、基本計画の中で適切な建設場所が見つからず、現在は新たな候補地を早急に探している状況です。 その背景には、子どもの数の減少があります。令和6年度の出生数は65人で、この子たちが3～4年生の頃には、複式学級(1つの教室で複数の学年を教える形)が必要になる可能性があり、複式学級を避けるためにも早急な対応が求められています。 これまでの検討期間中、保護者の皆様には不安や心配をおかけしましたが、子どもの減少や学校施設の老朽化という危機意識を共有し、理解を深めていただく時間として無駄ではなかったと考えています。実際、最近のアンケート結果からも、子どもの減少に対する危機感が高まっていることがわかりました。一方で、大学との連携については、町の魅力として十分に伝わっていない部分もあるようです。ただし、小中一貫校への期待は高く、学校統合や一貫教育への関心は多くの方に持たれています。その中で、大学との連携にも一定の期待が寄せられていると感じています。 今後は、今年の秋までに方向性を明確にし、大学との連携や小中一貫校の魅力を皆さんと一緒に考え、形にしていくことが大きな課題です。町としても、前向きに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。
学校再編に関して、現在進められている調査業務の期限が「12月末」とのご発言がありましたが、以前の定例議会(9月)では、委託している調査の報告が9月に提出される予定だと町から説明があり、他の議員の方も「9月まで報告を待ちましょう」といった発言をされていたと記憶しています。この記憶が間違っているようであれば、その旨を教えてくださいたいです。また、もし9月の報告がすでに町に届いているのであれば、それを踏まえて、次のステップとしての調査業務が12月末までとして進んでいるのか、それとも本来9月に完了するはずだったものが延期されて12月まで延長されたのか、その点についてご説明いただけたらありがたいです。	大学との包括連携協定に関する会議の場で「秋ごろ、できれば9月までに方向性を示したい」といった発言があったかもしれませんが、調査業務の正式な期限は10月から12月末までです。 ただし、12月まで何も報告しないというわけではなく、それ以前にある程度の方向性が決まれば、示していく想定です。現在検討している候補地には、町有地だけでなく大学の敷地も含まれており、相手のある話なので、具体的な時期を確定するのは難しい状況です。 9月にお示しすることは現実的ではないかもしれませんが、12月末より前にある程度の方向性を示すことは可能だと考えており、状況に応じて、議会や住民の皆さんには随時情報をお伝えしていく予定です。
送迎バスについてですが、高齢者の方が多く住んでいる地域では、免許を返納できずに不安を抱えながら運転を続けている方もいます。病院や買い物に行くためにバスを利用したいのに、停留所が少なく、移動が大変だという声をよく聞きます。そのため、停留所の数を増やしてほしいという希望があります。また、バスの本数や台数も少ないため、増やす必要があると感じています。	現在運行している循環バスは、主に国道沿いを走っており、山間部などの地域には十分に対応できていないのが現状です。運行は1日3便で、約1時間に1本のペースですが、より広い範囲に対応しようとすると、逆に本数が減ってしまいますので、すぐに路線や本数を増やすのは難しく、現状では対応が困難です。 高齢者の移動支援として、停留所までの移動に使えるタクシー助成制度を設けていますが、実際にはタクシーがつかまりにくく、運転手にも短距離利用で気を使い、利用が難しいという声もあります。 こうした課題を踏まえ、すぐにバスの便数を増やすのは財政的にも厳しい状況ですが、今後学校再編に伴ってスクールバスが導入される際には、登下校以外の時間帯を活用して地域の交通手段として補完できないか、検討していきたいと考えています。
学校再編についてですが、小中一貫校の方針がすでに決定しているのが気になっています。個人的には、今ある学校を活用しながら、地域ごとに東西に1校ずつ残す形で再編してほしいと考えています。そうすることで、地域の活性化や住民とのつながりが保たれると思います。 また、今回の町の報告では費用に関する説明がなかったことも気になります。以前は財政面の情報が出ていたので、今後の計画においても、費用についてしっかりと説明してほしいと思っています。	町では、小中一貫校の整備を進める方針に変わりはありません。これは、子どもの数が減少していることや、既存の学校施設が老朽化していることが背景にあり、新しく、より魅力的な学校をつくりたいと考えています。 保護者アンケートでは、「東西に分けて学校を残してはどうか」という意見もありましたが、例えば西地区では全体を合わせても児童数が30人未満にまで減っており、河和地区でも30人台まで落ち込んでいます。こうした状況を踏まえ、1校に統合する方向で進めるのが町の方針です。 費用面についても、以前から大きな変更はありません。記憶では、借金の額は約30億円ぐらいい、年間の返済額は約1億7,000万円だったと記憶しています。現在進めている調査では、町が負担できる範囲内で計画を立てており、それを超えるような事業は行わない方針です。建設可能な場所で、適切な事業費の中で進めていく予定です。

多世代交流型子育て拠点施設について、多世代という点、若者や高齢者なども含まれると思いますが、どのように若者や高齢者などが交流できる施設になるのか、施設面と運営面で具体的に教えてください。	この施設は、赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代が利用できるように設計されています。たとえば、施設内には以下のようなスペースがあります。 アトリウム:子どもが遊んだり、保護者や学生が会話や勉強をしたりできる開放的な空間。 プレイルーム:小さな子どもが自由に遊べるスペース。 育児サロン:保護者同士が情報交換や相談ができる場。 図書室:おもちゃ図書館など、子どもと大人のボランティアが交流できる場。 テレワークスペース:保護者が仕事をしながら、子どもの様子を見守れる環境。 この施設は、従来のように保育士や保護者だけが子どもを見守るのではなく、地域の高齢者や若者など、世代を超えた関わりを促すことを目的としています。たとえば、地域で行われている高齢者サロンなどをこの施設で開催することで、子どもと高齢者が自然に触れ合い、互いに良い刺激を受けるような相乗効果が期待されています。今後は、こうした交流をどう広げていくかをさらに検討していく予定です。地域の高齢者、子どもたち、保護者がどう関わり合えるかを考えながら、担当者と一緒に取り組んでいきます。 また、運営面では、日中は主に子どもや保護者が利用し、夕方以降は地域の方々々の活動や子ども会などにも活用できるようにすることで、交流の場をさらに広げていきたいと考えています。
学校再編に関する候補地の選定について、当初の計画から大きく遅れているとのことですが、できるだけ早くというご方針の中で、具体的なスケジュールは？	予定では、10月頃を目途に方針を決定したいと考えております。方針が決まり次第、次年度の予算に必要な費用を計し、次の段階へ進めるよう準備を進めてまいります。そのため、遅くとも10月中には方針を固める予定です。
候補地について、現在ある2つの中学校のいずれかを活用し、小中一貫教育の体制を検討できないか。経費面や交通手段の面でも、既存施設を活用する方がスムーズに進められるのではないかと思います。	候補地の選定にあたっては、建設費が非常に重要なポイントになると考えています。どれだけの費用がかかるのか、そしてその費用をどう返済していくのかという点は、最終的な判断に大きく影響する要素です。 現在、各候補地で建設した場合にどの程度の費用がかかるのか、また工期はどれくらいかかるのかといった点を調査・検討しているところです。先ほど申し上げたとおり、中学校も候補地の一つとして考えておりますので、引き続きよろしくお願いたします。
小中一貫教育は、地域全体に深く関わる重要な取り組みなので、小学校や中学校が単独でぽつんと存在するのではなく、地域交流施設などと連携し、福祉施設などと同じ敷地内に複合施設として建設するような形で整備していただきたいと思っています。	他の施設との併用には難しい課題もあると考えていますが、地域の方が気軽に立ち寄れるような場所を一貫校の中に設けることを検討しています
他市町村が立替えた校舎の使用年数に比べ、当町の小中学校の使用年数は50年と短いが、財政の乏しい町が、建物補修するなどして活用しようとしているんですか？	本町が小中一貫校の整備を目指す背景には、校舎の老朽化と児童数の減少があります。もちろん、築50年の建物がすぐに使えなくなるわけではありませんが、修繕費の試算では今後多額の費用が必要になることが分かってきました。 こうした状況を総合的に判断し、新しい校舎の建設と学校の統合を進める方針としています。少子化はどの地域でも共通の課題であり、財政的に厳しい本町のような自治体では、早期の対応が求められると考えています。
通学に関して、スクールバス30台・大型バス20台の運用が議事録で確認されていますが、以前から申し上げているように、それだけの台数をどこに停めるのかが大きな課題です。特に県道の活用については、交通状況が混乱する可能性が高く、現実的な対応が求められます。	駐車場の確保は当然必要ですが、すべてを小中一貫校の敷地内に停める必要はないと考えています。登下校時の駐車率は必要ですが、登校後の駐車場としては、他の小学校の敷地なども活用できる可能性があると考えています。
今の世の中、ご存じのようにトラック運転手さん、スクールバス、タクシー運転手がいなくて、人を一生懸命探しています。確保できてると思ってますか。	バス業者とのヒアリングの結果、対応は可能との回答をいただいております。ただし、運転手の確保などに一定の準備期間が必要とのことです。そのため、早めに相談してほしいという要望も受けております。必要な準備期間を確保すれば、業者としても対応可能との認識です。
他町の事例から試算した場合、毎年、通学するための交通費だけで2億かかると試算できますが、それをずっとやろうとしているんですか？	現在、美浜町が運営しているスクールバスは、1台あたり約500万円と、比較的費用を抑えて運用されています。他町では大型バスに2,000万円ほどかけている例もありますが、本町ではそのような高額の支出は想定しておりません。
多世代交流型子育て拠点施設について伺います。“子どもの居場所”とありますが、屋外に遊具は設置されるのでしょうか？運動公園に立派な施設ができると、この施設にはできないんじゃないかと疑問です。また、もしこの施設に児童館の機能を持たせる場合、現在ある保育所の児童館はどうなるのか教えてください。	遊具は屋外にも少し設置しますが、主に屋内に備える予定です。また、河和保育所では乳児が増えているため、現在の児童館や子育て支援センターは保育室に改修することになります。そのため、児童館機能や子育て支援の機能は、新しい子育て拠点施設に移す予定です。
町の財政状況を見ると、1つの小中一貫校への再編は費用が高くなるので反対です。一番安く済む方法を選択すべきであり、最低でも、東に1校、西に1校の案が良いです。	学校統合の必要性については、過去2年間にわたり説明してきました。子どもの数が減少していること、校舎の老朽化により修繕費がかかることが背景にあります。確かに既存校舎を修繕して使い続ける方が費用は抑えられるかもしれませんが、それが若い子育て世代にとって魅力的かどうかは疑問です。 美浜町では若い世代の流出が進んでおり、子どもを育てたいと思えるような教育環境を整えることが重要だと考えています。私自身も基本計画に基づき、学校統合を進めてきました。説明会では、多くの方が内容を理解してくださり、必ずしも賛成ではないものの、統合の必要性については一定の理解を得られたと感じています。 すべての方に納得いただくのは難しいですが、多くの保護者からは『早く進めてほしい』という声も届いています。実際に子育てをしている若い世代は、新しい施設を望んでおり、私はその声に応えていきたいと考えています。
現在、少子化が進んでいると言われていますが、その背景には産業や、交通の利便性の問題も大きく関係していると思います。交通の利便性が良ければ、その地域に住み続けたいと思います。少子化が進んでも、産業や交通利便性が良くなれば、子供の数も現状維持ぐらいになり、小中学校の統合も必要でなくなると思う。人口が減ったから統合するという発想ではなく、国道をはじめとした交通インフラの整備を進め、住みやすく、楽しく、魅力ある町づくりを目指すべき。	町の発展には、道路や交通環境の整備、そして地域産業の活性化が欠かせません。特に、知多東部線の南進に関しては、富貴駅周辺の整備が動き始め、名鉄との協議も進んでいると聞いています。町内でも、東部線の整備を含めた形で県との協議が行われております。 美浜町は、交通の便が決して悪くありません。名鉄の駅があり、知多半島道路や広域農道も整備されており、名古屋へ直通する電車も利用できます。さらに、地価が安く、海が近く、農地も豊富であることから、移住先として非常に魅力的な地域です。 観光面でも、美浜町にはさらなる収益の可能性があり、今後の成長が期待されます。こうした町の魅力をより強力に外部へ発信するために、地域戦略課を設置し、パンフレットや紹介ビデオの制作にも力を入れています。広告費を活用して質の高い広報物を作成し、町の存在感を高め、移住者や観光客を呼び込むことで、地域の活性化を図っています。

学校再編に関する保護者アンケートでは、「小中一貫校についてどう思うか」という質問に対し、「どちらでもない」と回答した人が53%を占めました。この結果は、再編に対して保護者が素直に「ありがたい」「うれしい」と思えない現状を反映していると考えます。背景には、「進めます」「頑張ります」といった言葉は聞こえてくるものの、具体的な時期や内容が見えず、期待が不安に変わっていることがあります。子育て世代は、過去の町の方針変更などで、慎重な見方を持っています。だからこそ、予算や方針だけでなく、開校時期や整備計画などのロードマップを早急に示し、保護者が安心して子育てできる環境づくりを進めていただきたいと思います。 最後に確認ですが、現在候補地として挙がっている3つの場所以外に、第4の候補地が新たに加わる可能性はないという理解でよろしいでしょうか。	学校再編について、当初令和10年の開校を目指していましたが、財政的な課題により令和12年への延期となり、結果的に令和14年を目標に再試算を進めています。この変更については「甘かった」との指摘も受け止めており、反省すべき点だと認識しています。現在、実現可能な候補地もあり、10月までには場所の方針を決定する予定です。児童数が減少し、複式学級のリスクが高まっており、町と教育委員会としてはこれを回避すべく、令和14年開校を目指しています。保護者の皆様に不安や落胆を与えてしまっている現状に対しては、明確な方向性を示し、信頼回復に努めたいと考えています。また、アンケート結果からも新しい学校の魅力づくりが不十分であることが明らかとなっており、町・教育委員会・地域住民がワークショップなどを通じて理想の学校像を共有し、喜ばれる学校づくりを進めてまいります。議会の承認を得ながら、責任を持って着実に進めていきます。
既存施設の候補地が、2つの中学校だけだが小学校は含めないのですか？	学校再編において、候補地は町内の2つの中学校です。これは敷地の広さに加え、武道場が既に整備されている点が理由です。小学校には武道場がなく、統合校として使用するには新設が必要となり、面積も小さいため候補から外れています。町としては小中一貫校の設置を基本方針としており、財政的に困難な場合や場所の確保ができない場合には、緊急的に東西分割案も検討していますが、現時点では一貫校の実現に向けて準備を進めています。
学校再編の方針について、10月に発表、3つの候補地から選択、14年度開校を目標としてに進めるということではなかったのでしょうか？	なるべく早い時期に出したいと思うので、10月頃には出せると思いますし、できればそれは早く出したいと考えております。あとの2点はそのとおりです。
今回の学校再編の延期による、教職員の人事に影響があるのかを確認させていただきたい。以前、開校時期が確定していないと人事配置の計画が立てられないと聞いたことがあります。令和14年度の開校を目指すのであれば、そこから逆算して、教員が5年、6年と勤務するスケジュールも見通せるのではないかと思います。	教職員の人事は美浜町単独では決められず、知多5市5町全体で異動が行われるため、3～5年かけて計画的に進める必要があります。現在町内には小中学校が7校あり、校長も7人いますが、小中一貫校が実現すれば校長は2人となり、教職員数も減少します。こうした変化に対応するには、県の人事方針との調整が不可欠であり、来年度すぐの対応は非常に難しい状況です。